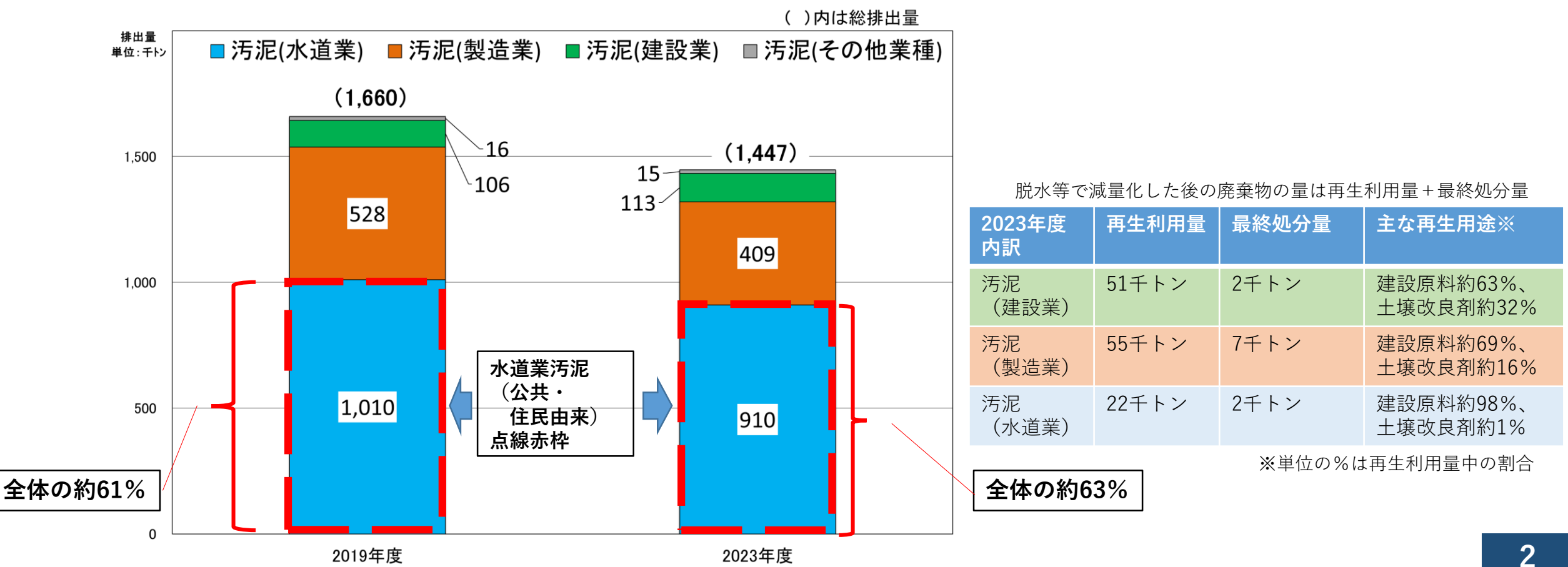

汚泥及び廃プラスチック類の排出量等について (産業廃棄物)

川崎市環境局

汚泥の排出状況（業種別の排出量の推移）

- ・ **水道業汚泥は公共・住民由来の廃棄物（人口に比例して排出され人為的に減らすことができない）** で、主に下水道業の汚水処理や上水道業の浄水場処理に伴って排出され、**全汚泥の約 6 割** を占める。
- ・ **汚泥を脱水（減量化）して残るのは全排出量の内、約10%** で含水量が多い廃棄物の特性上、再生利用に回せる余地が小さく、**排出量に対して再生利用率が低くなる**
- ・ **減量後の廃棄物量** を基準とした場合でも、汚泥の**再生利用量は約 9 割と高い**



目標「廃プラスチック類の再生利用率71%」の補足（その他の再生利用率減少について）

- ・廃プラスチック類で排出量上位業種を除いた、**その他（小規模事業）の再生利用率**が2019年から2023年にかけて**減少している**要因を内訳から見たところ以下のとおり
- ・**その他（小規模事業）の排出量の内、排出量が最も大きい業種は医療・福祉業**で、再生利用率の推移を見ると、24.9%から12.6%に減少しており、その他（小規模事業）の再生利用率の低下に影響
- ・**医療・福祉業では、衛生処理の観点から再生利用が困難な廃プラスチック類が多く出るため、再生利用率は比較的低く、市内では再生利用困難な廃棄物を中心に排出量が増加したため、再生利用率が低下**
- ・電気・水道業や生活関連サービス業で再生利用率が急増したのは、**大規模排出者において再生利用できる産廃処理業者へ処理委託先が変わった**ことなどによるもの（業種として全体の排出量が小さく、処理委託先の変化が再生利用率へ影響）

その他小規模業種における廃プラスチック類の処理状況

	排出量(千トン)		再生利用量(千トン)		再生利用率		
	2019年度 (実績)	2023年度 (実績)	2019年度 (実績)	2023年度 (実績)	2019年度 (実績)	2023年度 (実績)	2025年度 (目標値)
全業種	42.7	49.8	24.8	35.5	58.1%	71.2%	71%
建設業	10.3	11.8	7.8	10.8	76.1%	91.4%	
製造業	16.7	17.6	6.5	11.2	39.0%	63.8%	
卸・小売業	10.4	12.5	7.7	9.7	73.9%	77.4%	
その他(小規模事業)	5.2	7.8	2.8	3.7	52.5%	47.4%	
電気・水道業	0.0	0.1	0.0	0.1	4.3%	62.0%	
運輸業	0.9	1.0	0.7	0.6	80.2%	62.5%	
学術研究・専門サービス業	0.4	0.3	0.2	0.2	39.5%	79.7%	
宿泊業・飲食業	1.6	2.4	1.3	2.1	82.3%	87.3%	
生活関連サービス業	0.2	0.1	0.0	0.1	17.5%	91.5%	
医療・福祉	1.9	3.8	0.5	0.5	24.9%	12.6%	
サービス業	0.3	0.2	0.1	0.2	39.8%	78.8%	

※0.0千トンのセルは0.4千トン未満で四捨五入されているため表記上ゼロに見えます